

令和5年度事業報告書

公益財団法人 北九州活性化協議会

目次

(概況)	…………… P 1
--------	-----------

(事業報告)

I 公益目的事業 1

北九州市地域の活性化に関する調査・研究を行うとともに、行政及び関係団体と活性化施策の総合的な調整を行うことによって、北九州地域の発展に寄与する事業

1 “もったいない”を未来に引き継ぐ事業 (もったいない総研事業)	…………… P 2
--------------------------------------	-----------

2 産業人材を育成する事業 (北九州地域産業人材育成フォーラム事業) ※別紙1参照	…………… P 3
---	-----------

3 次世代を担う人材を育成する事業 (「北九州の企業人による小学校応援団」事業) ※別紙2参照	…………… P 3
--	-----------

4 都市格(文化力・教育力)を向上する事業 (「1000人の夢寄金」事業) ※別紙3参照	…………… P 3
--	-----------

5 まちづくり推進事業	…………… P 4
-------------	-----------

II 法人運営事業 …………… P 5

「公益法人法」を遵守することにより、法人運営を適切に維持・管理し、かつ、当協議会の公益目的事業を円滑に遂行するために必要な、組織運営体制および財務基盤の強化を図る。

（概況）

令和5年は、新型コロナウイルス感染症の感染も収まり、北九州市においても市民の生活、経済活動が平時に戻った1年となりました。

北九州市の景気動向は概ね回復の軌道にありますが、日本銀行北九州支店の経済概況によると、横ばい、弱含みと表現されている分野もあり、ロシアのウクライナ侵攻を伴う世界的なインフレーションによる影響もあり、今後の経済情勢は必ずしも万全とは言えない状況です。

その様な中、KPECの令和5年度のKPEC事業は、これまでの主力の公益事業である；

- ①もったいない総研事業
- ②北九州地域産業人材育成フォーラム事業
- ③北九州の企業人による小学校応援団事業
- ④1000人の夢寄金事業

に加えて、前期に引き続き、法人事業として「風力発電人材育成事業」に取り組みました。

また、北九州活性化協議会が直面しておりました最大の課題でありました財務改善につきましては、法人事業の新規開拓、経費削減、資産運用などにより経常収支は黒字を達成することができました。これもひとえに皆様のご支援とご理解の賜物と承知しております。この場をお借りして御礼申し上げます。

(事業報告)

I 公益目的事業 1

北九州市地域の活性化に関する調査・研究を行うとともに、行政及び関係団体と活性化施策の総合的な調整を行うことによって、北九州地域の発展に寄与することを目的とした事業

1. “もったいない”を未来に引き継ぐ事業 (もったいない総研事業)

“もったいない”の概念を踏まえたシビックプライド(まちへの愛着・誇り)の醸成の企画・研究を行い、当協議会が提唱する“もったいない”の普及を図ることを目的とした事業。

1) 資源循環型社会づくり施策の一環とした商品の企画・開発・普及を推進

(1) 『北九州紙 えこっパー』の普及によるSDGsの推進

① 『北九州紙 えこっパー』の普及促進

牛乳パック・古紙を再利用したりサイクルトレットペーパー『北九州紙・えこっパー』を「北九州エコプレミアム選定商品(令和元年度に選定)」として効果的にPRするとともに、北九州市のホームページの暮らしの情報への掲載など、認知向上、普及拡大に取り組み、地域循環サイクルの実現を通じてSDGsを推進した。

<えこっパー販売数> (1パック6個入り)

前年比では約マイナス4%。

◇令和5年度販売数：165,800パック(前年比7,552パック減)

◇累計販売数(平成13年度～令和5年度)：4,112,744パック

<『えこっパー』のホームページでのPR>

◇北九州エコプレミアムホームページ [選定検討会委員特別賞の紹介]

<https://www.kitaq-ecotown.com/ecopremium/special/entry/797.php>

◇北九州市ホームページ [暮らしの情報(源回収された古紙の行方)]

<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kankyuu/01100168.html>

② 『北九州紙・えこっパー』による環境教育の実施

全国牛乳容器環境協議会や北九州の企業人による小学校応援団事業等と連携して、牛乳パックリサイクル製品である『北九州紙・えこっパー』の企画意図と製作過程を環境教育教材にした出前授業を継続実施した。

2) 市民が評価する北九州市の産業、文化、社会、生活等の中にある“価値あるもの”を「北九州市民財産(仮称)」として、“もったいない”の概念を踏まえた新しいシビックプライドとして捉え、これを体系的整理し街づくりに活用していく、「もったいない総研事業」の企画、研究および普及を推進する。

(1) “もったいない”の概念を踏まえたシビックプライドの醸成事業の開発

① 『北九州市立旧百三十銀行ギャラリー』の指定管理事業の運営及び近現代建築物の保存・活用の研究の実施

「北九州市の文化財を守る会」と協働で旧百三十銀行ギャラリー（北九州市指定有形文化財）の指定管理運営事業を円滑に実施するとともに、本事業を通じて、近現代建造物の保存・活用(ファシリティマネジメント)の研究と北九州地域の近現代建築物の紹介(パネル写真展・歴史講演会等を開催)および保存活動の推進を行った。

＜令和5年度の主催事業まとめ＞

稼働率は目標の40%を超え41%を達成。

利用件数は目標に届かなかった。

項目	目標	結果	参考)令和4年
利用件数	50件	43件	34件
稼働率	40%	41%	45%

(2) 自然環境保全ネットワークの会（通称：自然ネット）

北九州市環境局自然共生係が事務局となり北九州市の自然環境保全、動植物の調査など、北九州市のCOP15への取り組みを進めている任意団体に参画した。

2. 産業人材を育成する事業

「北九州地域産業人材育成フォーラム」を編成し、「高度人材育成プログラム事業」「社会人育成プログラム事業」「青少年育成プログラム事業」及び「産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備事業」を実施し、産学連携による産業人材育成システムの構築に向けた企画開発と事業実施を行った。

※事業報告の具体的内容は、

「2023年度北九州地域産業人材育成フォーラム 事業報告書」（別紙1）の通り

3. 次世代を担う人材を育成する事業（北九州の企業人による小学校応援団事業）

「北九州の企業人による小学校応援団」を編成し、北九州市内小学校129校を対象に、出前授業、教員研修及びPTA活動促進支援事業を実施した。

※事業報告の具体的内容は、

「2023年度北九州の企業人による小学校応援団事業報告書」（別紙2）の通り

4. 都市格（文化力・教育力）を向上する事業（1000人の夢寄金事業）

民間の力を結集し、教育や文化的活動を行う法人・個人・団体に対して活動費用を助成し、北九州市の未来のために、このまちの教育力・文化を共に育み、真に魅力あるまちづくりを進めて行くことを目的とした「1000人の夢寄金」事業

※事業報告の具体的内容は、

「2023年度1000人の夢寄金事業報告」（別紙3）の通り

5. まちづくり推進事業

北九州市域の新しい課題、ニーズを適正に把握することにより、産・学・官・民の連携軸として北九州市域の活性化と持続的発展を図る事を目的とした事業。

1) 産学官民連携による地域活性化事業の推進

(1) 新規事業の企画開発のための調査・研究の実施

北九州市の様々な課題、優位性などを調査し、令和5年度も前期と同じく「北九州市グリーン成長戦略（エネルギー戦略）」に関する情報集等を実施した。

(2) 地域づくりネットワークの構築

公益財団法人としての組織的環境を活用し、産学官連携による地域づくりの視点を踏まえた地域活性化事業を推進する。

① 北九州地域経済団体連携フォーラムの運営

北九州市内の経済団体による「北九州地域経済団体連携フォーラム」(事務局KPEC)を編成し、各種の情報の共有と事業運営における連携、協働の環境づくりを行う。

i) 共同プロモーション事業の実施

各団体の保有する各種情報及び事業について、共同広報や参画支援等の事業運営にかかる協力、支援を行う計画、実施した。

② 地域づくりネットワーク福岡県協議会への参画

「地域づくりネットワーク福岡県協議会」へ参画し、地域活性化施策の研究、調査及び研修を行うと共に、北九州市域の地域づくり団体との橋渡しを行った。

(3) まちづくり事業の支援、協働の実施

① 北九州ミュージックプロムナードの支援

平成8年にKPECの提唱で始まった北九州市民参加交流型の音楽フェスティバルとして定着している「北九州ミュージックプロムナード実行委員会」に参画し、運営を支援した。

② 北九州市にぎわいづくり懇話会への参画

ビクターズ・インダストリー創出を目的とした「北九州市にぎわいづくり懇話会」に参画し、行政と協働でにぎわいづくり事業の企画、実施を行った。

2) まちの活性化に関する情報発信事業

(1) 情報受発信の強化

KPECの運営趣旨と活動及び地域活性化に関する各種情報を地域に伝えるための情報発信事業を推進した。

① KPECニュースの発行

KPECの運営及び事業を、KPEC会員及び関連団体に広く広報するために、KPECニュースを発行した。

<KPECニュースの発行>

◇ KPECニュース Vol68 令和5年7月17日発行（発行部数1000部）

◇

② ホームページの運営

専用ホームページの充実を図り、K P E C 事業活動情報をタイムリーに発信した。

II 法人運営事業

「公益法人法」を遵守することにより、法人運営を適切に維持・管理し、かつ、当協議会の公益目的事業を円滑に遂行するために必要な、組織運営体制および財務基盤の強化を図った。

1. 事業運営体制の検討

1) K P E C の事業運営・管理体制の強化

(1) 経営基盤の強化に資する事業開発・開拓

北九州市より風力発電人材育成事業に関する補助業務の受託を継続。

北九州市グリーン戦略を側面から支援し、且つ、市内の工業高校、大学校と企業の連携を推進できた。同時に財政面の改善を図る事ができた。

(2) 寄付金事業の事業化

特定の寄付事業を確立する情勢に至らず、具体化できなかった。

2) 事業運営体制の整備促進

事業の地域における位置づけが確立し、地域システム化が進んだ事業（北九州地域産業人材育成フォーラム事業、北九州の企業人による小学校応援団事業等）について、KPEC の役割と各事業における関係機関・組織等（ステークホルダー）の分掌を明確にして、事業の自立化を含めた検討を行った。

3) 会員募集と会員サービスの向上

(1) 会員募集の強化

新規会員募集の推進については、前年度に続き、地道な募集活動を継続した結果、2年連続で増加となった。

◇令和5年度賛助会員数：100名（対前年：15名増）

◇令和5年度賛助会費額：2655千円（対前年 435千円増）

(2) 会員サービスの向上

賛助会員に対して、K P E C が実施する各種地域活性化事業への案内、行政や他団体からの講演会開催等の情報提供を行い、会員との協働による地域活性化に務めた。

2. 会議等の実施

定款等に基づき、所定の会議を開催した。

1) 理事会の開催

① 定時理事会

第1回：令和5年5月30日

第2回：令和6年2月26日

2) 評議員会の開催

① 定時評議員会

第1回：令和5年6月23日

第2回：令和6年3月15日

3) 執行役員会議の開催 (月1回)

別紙4参照

別紙 1

北九州地域産業人材育成フォーラム
令和 5（2023）年度 事業報告書



北九州地域産業人材育成フォーラム
Kitakyushu Forum for Development of Human resources and Industries

I 概況

令和5年度の産業人材育成フォーラム事業は、コロナ禍の経験も踏まえた中で、感染防止対策を行いながら①高度人材育成を目的とした、各種インターンシップの実施 ②中堅・中小企業の中核技術者、経営人材の育成を目的とした、地域大学の大学院を活用した各種プログラムの実施 ③産学連携による早期工学教育の環境づくりを目的とした、ものづくりに関する教育機会づくりや早期工業教育の開発・実施と、国や北九州市が推進するインターンシップ、リカレント教育、まち・ひと・しごと創生総合戦略による地方創生インターンシップの推進等と連動した各種事業を推進した。

しかしながら、新型コロナウイルスの罹患影響がまだあり、一部インターンシップの中止や変更が発生した。また、社会人プログラムの準備停滞が生じるなど、皆様の期待に沿えることができなかった。

1. 高度人材育成プログラムの企画、運営

「地域連携型インターンシップ事業」は、通常の「研修型(短期)インターンシップ」、「実践型(長期)インターンシップ」の推進に加え、課題解決をテーマにした北九州市立大学（以下北九大）の1年生インターンシップ、労働安全衛生を切り口にした産医大2年生のインターンシップなど、低学年のインターンシップについても引き続き強化・実施に取り組んだ。

学生の成長につながる企業からの課題提示や、将来の中核人材を担う視点を醸成する新たな事業創造を体験するインターンシップなどを提供する企業もあり、北九州地域での人材育成の必要性に対する動きに変化がみられた。

2. 社会人育成プログラム事業の支援

中堅・中小企業の経営・管理者育成を目的として、北九大大学院マネジメント研究科（K2BS）と連携して「採用力強化セミナー」「実践経営車座講座」を実施する予定であったが、一部企画検討したものの、まだコロナ禍の影響があり予定プログラムすべて見送りとなった。

3. 青少年育成プログラム事業の企画、運営

「北九州の企業人による小学校応援団」の出前授業で、フォーラム協働企業（ものづくり企業）を対象に「ものづくり」をテーマとした出前授業の企画・募集を行うなど、青少年育成プログラムが目指す早期工学教育の環境づくりを多面的に支援した。

4. 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

ホームページの活用を中心に、フォーラム事業の情報を手軽に入手できるように、提供方法、内容等の改善を進めた。

5. R5年度はUIターンとインターンシップの関係性について調査事業

新卒で就職の3年以内の転職率が30%で推移する中、学生時代にインターンシップで関係性を持った企業を転職先候補として興味関心があるのかを調査し、希望した企業で試行的に運用した。

令和5年度の北九州地域産業人材育成フォーラムの活動結果は、次のとおりである。

II. 事業計画の内容

1. 高度人材育成プログラムの企画、運営

「地域連携型インターンシップ」の中核事業である「研修型(短期)インターンシップ」の拡充を図るとともに、「実践型(長期)インターンシップ」の環境づくりを推進した。

1) 地域連携型インターンシップ事業の拡充、実施

(1) 研修型(短期)インターンシップ事業の拡充、実施 (継)

大学から職場・社会への円滑な移行のための社会人基礎力の修得と、地元中堅・中小企業の認知向上による就職機会の創出等を目的に、連携校と協働で「研修型(短期)インターンシップ」事業を実施した。

《研修型(短期)インターンシップの実績推移》 ※延べ人数

	H30 年度		R 元年度		R 2 年度		R 3 年度		R 4 年度		R 5 年度	
	登録	実施	登録	実施	登録	実施	登録	実施	登録	実施	登録	実施
学校(校)	5	5	6	5	5	4	5	4	5	4	5	4
企業(社)	83	32	86	39	62	21	59	34	63	30	71	23
学生(人)	74	65	85	76	41	36	55	49	47	47	49	50※

① インターンシップの対象拡大と柔軟な対応 (継)

域外工学系大学生（福岡工業大学）へ北九州地域企業のインターンシップ情報を提供し、インターンシップの拡大に努めた。

また、学生がインターンシップを利用しやすい環境を創るため、インターンシップ受入時期や期間等の柔軟な対応に努めた。

② キャリアアップ型インターンシッププログラムの開発と環境づくりの推進 (継)

『キャリアアップ型インターンシッププログラム』に関しては、北九大より「未来地域産業インターンシップ」として取り組む大学1年生を対象にした課題解決型インターンシップの受入企業拡充支援を行い、企業への学生の橋渡し、報告会への参加等を実施し、以下の効果が期待できた。

- ・学生の自己の実力把握と学習目的醸成。
- ・企業への人材育成に対する認知向上。
- ・キャリアアップ型の経験による、学生自らの学修の方向性把握。
- ・研修型（短期）インターンシップにつながる基礎部分の補強。

③ 文理融合を推進する為、文系学生の理系インターンシップ参加を推進 (新)

九州国際大学向けに文系学生が理系インターンシップに参加、体験する機会を提供し、学生の選択肢拡大への可能性などを探るため、企業の協力を得てインターンシップの案内チラシを送付、学生への広報を行ったが参加希望者は出なかった。

(2) 実践型(長期)インターンシップ事業の環境整備と拡充 (継)

将来の産業を担う人材育成のため、九州工業大学（以下九工大）を中心に「実践型(長期)インターンシップ」の実施環境づくりを行い実施した。

特に製品図作成の効率化・DX 化プログラム構築に取り組んだ学生に関しては、システム活用知識がない状態でのスタートであったが、企業担当者の指導やプログラム実践により課題を解決しプログラムを構築。最終的に効率化・DX 化の推進に繋がるなど、学生自身も成長実感を強く感じられる結果となった。

実践型（長期）インターンシップ実績推移

年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
学校(校)	2	1	1	1
企業(社)	4	4	5	4
学生(人)	6	7	5	5

令和5年度 実践型（長期）インターンシップ実績

企業・組織名	九州工業大学 工学部	九州工業大学 情報工学部
(株)プラテック		2名
(株)リョーフ	1名	
(株)C & Gシステムズ		1名
日本ヒューム(株)		1名
合計4社		5名

① 実践型(長期)インターンシップ参加者増加のための施策の実施（継）（変更）

インターンシップ受入企業の企業情報や研修内容および実際に体験した学生の声など、学生に参加を促す情報をホームページに掲載し、説明会などで紹介した。

また、企業、大学関係者との意見交換により、実践型(長期)インターンシップの更なる理解促進に努め、実施企業および参加学生の拡大に努めた。

その他、北九州市立大学大学院次世代研究者挑戦的研究プログラムの実施についても、引き続き支援した。

② 北九州高専の実践型(長期)インターンシップコースの拡充支援（継）

北九州高専の長期インターンシップ（本科、専攻科）の参加企業拡充に向けての支援を実施した。

《北九州高専長期インターンシップ実績推移》 ※フォーラム協働企業のみ

	R2年度		R3年度		R4年度		R5年度	
	専攻科	本科	専攻科	本科	専攻科	本科	専攻科	本科
企業(社)	3	12	3	1	6	0	3	3
学生(人)	4	18	5	1	6	0	3	3

(3) 低学年に対応したインターンシップの支援（継）

北九州市が力を入れているSDG'Sや再生可能エネルギーにつながる産業人財育成に向けて、北九州市立大学の「未来地域産業インターンシップ」など、長期に向けたキ

キャリアアップ型インターンシップに取り組む1、2年生を対象にしたインターンシップの受入企業拡充支援を実施した。

《北九大1年 インターンシップ実績推移》

年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
企業(社)	7	9	7	7
学生(人)	22	12	13	12

2) 連携校における地域連携型インターンシップの周知と参加促進事業の実施

「地域連携型インターンシップ」事業の運営目的と活用意義を学生及び学内関係者に周知し、インターンシップ参加を促進するための各種事業の企画、開発、運営を行った。

(1) 北九州地域企業研究・交流会の企画、開催 (継)

学生、大学教員・スタッフ等の関係者の地元企業の認知促進を目的として、インターンシップを実施する北九州地域企業の企業研究のため「企業見学ツアー」を実施した。

開催日	見学企業	参加学校	参加	
			学生	教員
令和6年 3/19(火)	株式会社ヘッズ	九州工業大学 工学部機械系	18名	4名

(2) 「北九州地域産業人材育成フォーラム」ホームページの拡充 (継)

インターンシップの参加者拡大に向け、インターンシップ参加者や地元企業の声を直接伝える動画配信や登録企業の協力を得てインターンシップ実施の有無など学生への早期情報発信に努めた。

《コンテンツ》

- ・企業情報の更新および動画の配信
- ・インターンシップ体験談（動画）の掲載
- ・インターンシップの魅力（動画）の掲載

＜ホームページアクセス数の変化（「北九州地域産業人材育成フォーラム」TOPページ実績＞

	令和3年度	令和4年度	令和5年度
ページビュー数 (PV)	12,304	12,947	11,261

(3) 連携校における各種事業プロモーションの実施環境の整備 (継)

連携校において実施されている「インターンシップガイダンス」は、今年度も対面とオンライン併用の実施となったが、事務局が直接参加し説明するなどプロモーションを実施した。また、広報チラシについても、各学校から学生へメール配信していただくなど、各学校の実情に合わせたプロモーションも実施した。

3) 地域連携型インターンシップ運営のための環境整備

(1) 地域連携型インターンシップ運営のためのコーディネート機能の強化 (継)

企業開拓において、北九州テクノサポート (K T S) のコーディネーターによる対面、電話、メールなど幅広い取り組みにより、活動機能を強化した。

(2) インターンシップ事業の円滑運営のための各種アンケート・調査の実施 (継)

インターンシップに関連する各種アンケート・調査を実施し、調査結果については、今後のインターンシップ事業運営に活用する。

《インターンシップ関係調査》

- ・ 地域連携型インターンシップ実施後学生の意向調査(全大学: I S 実施学生)
- ・ 地域連携型インターンシップ実施企業の事業実施後状況調査(I S 実施全企業)
- ・ 連携大学・高専におけるインターンシップ実施状況調査(全大学、全学部)

《就職状況関係調査》

- ・ 連携大学・高専における地元就職状況調査 (全大学・全学部全学科別)
- ・ 地域連携型インターンシップ参加学生の地元就職状況調査 (全大学・全学部)

<アンケート調査結果 (前年度との比較) >

- ・ 働くことを体験したい、希望する業種や企業の実務を体験したいと思う学生が増加。
- ・ 実習先の実習内容に興味を持つ学生や実習内容に興味があった学生が増加するなど、今後についても、実施前の実習の詳細内容提供が重要。
- ・ 参加した学生は、実習意欲が高く、コミュニケーションも良好との評価。
- ・ より良いインターンシップ実施に向け、学生に対し、実習前に目的意識に関する教育やマナー教育を行ってもらうことが重要。

(3) U/I ターンとインターンシップ関係性の調査事業【新規】

インターンシップに参加した学生が、実施企業との関係性を継続的に持ち、転職先候補として興味関心があるのかを調査した。結果、マッチングが成立したことにより事業の試行的実施に繋がった。

対象企業：計測検査株式会社 参加学生：3名

2. 社会人育成プログラム事業の支援

地域企業の中核専門人材の育成と経営管理者の育成を目的として、北九州市立大学大学院マネジメント研究科 (以下「K2BS」) と連携した、経営者・管理者育成のための事業支援については、今年度も新型コロナウイルスの影響を受けることとなった。

1) 中堅・中小企業の経営・管理者育成に向けたMBA活用プログラムの支援

K2BS と連携して、K2BS の環境を活用した地域企業の経営者・管理者育成のためのプログラムの支援を行う予定であったが、中止となった。

(1) 中堅・中小企業向け「MBA サテライトフォーラム」の開催・支援 (継)

K 2 B S による公開経営研究講座の企画・実施により、北九州地域の中堅・中小企

業の経営者・経営管理人材の育成支援（リカレント教育・実践的マネジメントスキルの向上）と K2BS の地域プロモーションの促進を計画したが、新型コロナウイルスの影響が残っており中止となった。

(2) 経営管理者のための「実践経営学講座・車座塾」の支援（継）

ケースメソッドによる実践的経営学講座(車座塾)の企画・実施により、北九州地域の中堅・中小企業の課題解決・経営革新および若手経営者（リーダー）育成の支援を計画したが、新型コロナウイルスの影響が残っており中止となった。

2) 中堅・中小企業の中核技術人材等の育成に向けた支援

中堅・中小企業の中核専門技術者の技術力強化とスキル向上に有効な教育プログラムの活用促進のための支援を実施した。

(1) 北九州ドクターチャレンジプログラムの活用促進（継）

北九州地域企業の中核技術人材の専門技術力の向上と研究開発の促進を図るため九工大大学院及び北九大国際環境工学部大学院の「長期履修制度」のフォーラム協働企業へのプロモーション活動を実施した。

(2) 北九州テクニカルカレッジプログラムの活用促進（継）

九工大の「学術コンサルティング制度」の活用促進を進めるため、フォーラム協働企業へのプロモーション活動を実施した。

<学術コンサルティング制度活用状況>

年度	H30 年度	R 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
活用実績 (全体)	36 件	46 件	57 件	49 件	71 件	53 件
(内、市内企業)	(4 件)	(7 件)	(14 件)	(5 件)	(8 件)	(8 件)

※令和 5 年度は令和 6 年 3 月末時点

<令和 5 年度の特徴（前年度の違いや企業様の反応）>

令和 5 年度の件数は前年より下がったが、年々着実に右肩上がりとなっており、北九州市内からの活用状況も増えている。また、企業からの要望に合わせた内容で本制度が広く活用されていることもあり、一定の成果がでているのではと思慮される。

(3) 経営管理者向け「企業の強み認識講座」の開催（新）

北九州地域の中堅・中小企業を対象に、自社の強み認識のための講座形式勉強会の企画・実施により、参加企業の事業価値を高め、長期的な企業戦略の在り方を構築した。

講座期間：2023 年 6 月～8 月 本講座全 3 回（ワークショップ型 各 3 時間）
2024 年 1 月 事後フォローアップ

講座内容：事前説明会、本講座全 3 回（各 3 時間）、
WEB での個別面談、事後フォローアップ

受講企業：3 社（株式会社エコウッド、株式会社日栄紙工社、株式会社ヘッズ）

成 果：「自社の魅力を活かす未来ビジョン（攻めの経営レポート）」作成

3. 青少年育成プログラム事業の企画、運営

産学連携による早期工学教育の環境づくりを目的として、「北九州企業人による小学校応援団」と連携したものづくり教育の環境づくりを行った。

1) 「北九州の企業人による小学校応援団」と連携したものづくり教育の環境づくり（継）

「北九州の企業人による小学校応援団」の出前授業について、フォーラム協働企業（ものづくり企業）を対象に「ものづくり」をテーマとした出前授業の募集を行い、青少年育成プログラムが目指す早期工学教育の環境づくりを多面的に支援した。

4. 産業人材育成の地域クラスター形成に向けた環境整備

フォーラム事業の拡充と持続的発展のための地域システム化を図るため、協働企業の会員化による事業の運営基盤の強化、事業運営の ICT 化を進めると共に、地域におけるプロモーションを推進した。

1) フォーラム協働企業の有志会員化の推進（継）

フォーラム協働企業(事業実施企業 197 社)をベースにして、フォーラム事業運営の基盤企業となる有志会員企業の募集、登録を促進したが、積極的な企業はなかった。

◇令和5年度フォーラム有志会員企業数：38 社

2) フォーラム事業の広報システムの構築とプロモーション事業の実施（継）

フォーラム事業を協働する企業経営・管理者と連携校の教員等関係者との交流促進のため「顔の見える産学交流会」（産学交流会等）の開催を検討したが、コロナ禍の影響も残っており今年度も実地できなかった。なお、インターンシップを実施する北九州地域企業の企業研究のため連携大学による「企業見学ツアー」を実施。また、「未来地域産業インターンシップ」の報告会を活用し企業経営管理者等と教員の意見交換の実施や、連携校におけるインターンシップ参加、地元就職促進のための地元企業情報の周知促進ツールとして、動画を活用した産業別インターンシップ PR、など、北九州地域産業人材育成フォーラムのインターンシップホームページの拡充を行った。

令和5年度 北九州地域産業人材育成フォーラム 決算

(単位:円)

	項 目	令和5年度予算額	令和5年度決算額	決算の増減	内 訳
収 入	1)負担金	7,600,000	7,600,000	0	
	①北九州市	6,600,000	6,600,000	0	
	②北九州活性化協議会	1,000,000	1,000,000	0	
	2)会費	2,170,000	2,140,000	▲ 30,000	
	①企業会員	1,170,000	1,140,000	▲ 30,000	企業負担金 30,000× 38社
	②大学・高専	1,000,000	1,000,000	0	大学等会費 300,000×3校 100,000×1校
	③交流会	0	0	0	
	3)雑収入	0	148	148	
	①出展料等	0	0	0	
	②企業見学バスツアー補助	0	0	0	
③預金利息	0	148	148		
4)前年度繰越金	800,000	877,605	77,605		
	【収入合計】	10,570,000	10,617,753	47,753	
支 出	1)人件費	0	0	0	
	①事業担当人件費	0	0	0	
	②臨時的雇用人件費	0	0	0	
	2)謝金	215,200	358,160	142,960	
	①専門家謝金	215,200	358,160	142,960	
	3)旅費	435,000	312,553	▲ 122,447	
	①旅費等	150,000	21,284	▲ 128,716	近距離旅費 等
	②専門家招聘旅費	285,000	291,269	6,269	
	4)委託料	8,570,000	8,126,920	▲ 443,080	
	①KTS業務委託	3,000,000	3,000,000	0	KTS 業務委託料一式
	②KPEC業務委託	4,670,000	4,670,000	0	KPEC 管理費、人件費一部負担等、業務委託料一式
	③その他業務委託	900,000	456,920	▲ 443,080	HP改修・クラウド料 等
	5)その他経費	1,349,800	1,115,105	▲ 234,695	
	①会場借上げ料	70,000	56,900	▲ 13,100	
	②印刷費	350,000	225,720	▲ 124,280	インターシップパンフレット 等
	③通信運搬費	35,000	136,295	101,295	リーフレット送付・電話代 等
	④事務消耗品費	132,916	40,272	▲ 92,644	事務用消耗品費、DX対応品費 等
	⑤会議費	56,000	67,889	11,889	会議時飲み物代 等
	⑥交流会費	0	0	0	
	⑦使用料及び賃借料	655,884	546,999	▲ 108,885	事務局関係諸費
⑧参加補助費	0	0	0		
⑨雑費	50,000	41,030	▲ 8,970	振込手数料 等	
	【支出合計】	10,570,000	9,912,738	▲ 657,262	

別紙 2

北九州の企業人による小学校応援団 令和 5 年度 事業報告書

I 支援事業の推進

企業等の協力を得て、親学推進プロジェクト、講師派遣プロジェクト及び社会体験プロジェクトとして児童への出前授業、教職員・保護者（PTA）向けの研修等を継続実施した。その他、本事業の継続的な発展と円滑化を図るために、市内教育関係者と経済界の連携・協力や交流を促進するための環境プロジェクトを実施した。

支援対象は市内の全市立小学校127校で、出前授業の利用は申し込みが55校、実施回数は311回であった（R4年度は56校、248回）。

今年度は新型コロナウイルスも収束傾向にあり、また小学校応援団の学校現場での評価の高まりや体験学習へのニーズの高まりもあって出前授業の申込、実施ともに発足以来過去最高の件数となった。

また今年度は、国立青少年教育振興機構や福岡市議会議員からも小学校応援団への視察が実施され、地元企業全体で子どもたちの育成を支援する本事業の仕組みと実績に高い評価を受けた。

1. 親学推進プロジェクト

PTAへの父親参加の促進、企業従業員を対象にした親学推進について、普及に向けた具体策を図ると共に、PTA活動支援についても継続実施した。

1) PTAへの親（社員）のPTA総会など各種事業への参加促進

小学校応援団参加協力企業に対して、PTA総会や各種事業の参加促進方法について検討を行った。その他、コロナ禍明けの学校教育現場の教員の多忙さなども考慮し、保護者への周知の是非、方法については慎重に検討した。

2) 参加協力企業における親学推進

参加協力企業の従業員を対象に、小学校の現況や学校との関わり方等の理解促進を目的とした親学推進事業（出前説明会）については、ニーズなどを企画委員会で検討した。

2. 講師派遣プロジェクト

児童を対象とする出前授業、教諭や管理職の研修会への講師派遣等についての環境づくりと支援を行った。

1) 出前授業・研修の継続実施

企業等の協力を得て、児童への出前授業、教職員・保護者（PTA）向けの研修等を継続実施した。

実施件数は発足以来過去最高を記録し、特に体験型の授業に人気が集まった。また、キャリア教育のニーズも引き続き高く、キャリア教育の日やキャリア教育月間として複数の出前授業を申し込む小学校が増えている。その他、10数社の企業を体育館に一堂に集めて実施するワークショップ形式のキャリア教育授業「職業ミーティング」も実施した。

この他、オリジナルオーダーとして、児童にSNSやスマホの正しい使い方や危険性を紹介するネットリテラシー授業の要望があり、登録講師に依頼して実施するなど、小学校のニーズにきめ細やかに対応した。

2) 出前授業・研修の業務円滑化の推進

(1) 利用方法の周知徹底

講師企業ごとに、事前の準備及び当日のやり方などが異なるため、出前授業実施校が利用方法の把握が難しい場合がある。これらの課題を解消するために、事前・当日の利用方法について、申し込み受け付け時に小学校へ再度通知を行うなど、きめ細やかな対応を徹底した。

(2) ガイドブックの制作と配布

出前授業のテーマ一覧や授業内容及び申込み方法などわかりやすく紹介する「ガイドブック」の制作と配布を継続して行った。また、講師企業への理解度を上げることが、小学校が安心して出前授業利用できることに繋がるため、講師企業紹介を企業と相談しながら盛り込んだ。

さらに、小学校からニーズの高いSDGsテーマやリモート授業について、現場の先生にわかりやすく周知した。

3) 学校現場のニーズに対応した出前授業の環境整備

企業からの出前授業の登録に加え、小学校側の希望テーマに対応した出前授業の環境づくりを行い、ニーズに対応した出前授業の充実を図った。毎年4月に実施している小学校へのアンケート調査をもとに、ニーズの高い新規テーマの開拓を検討した。

(1) 小学校の個々のニーズに対応したオリジナルテーマの継続

平成30年度より試験的に実施している、小学校の個々のニーズに対応したオリジナルテーマへ対応する出前授業の実施について、協力企業等の環境を調査し、実施体制の構築を図った。

(2) 多様なニーズへの対応

小学校のニーズが多様化しているため、小学校に対しニーズ調査を行い、調査結果をもとにニーズの多いテーマについては固定テーマの設置が可能となるように、講師企業の開拓に努めた結果、R6年度は日本製鉄やアドバンテスト九州システムズ他5企業（団体）が新規で講師登録を行う他、既存の講師からも交通事故防止に関する出前授業や性教育、自殺防止をテーマにした新規の授業登録が実現することとなった。

3. 社会体験プロジェクト

児童の社会体験学習の支援・協力や、教諭や学校管理職の研修の受け入れについて、小学校の要請に対応した環境調整と支援事業を行った。

4. 環境づくりプロジェクト

小学校応援団事業の円滑な運営環境を構築するため、市教委等教育関係者と経済界の連携・協力・交流の促進を図った。

1) 小学校長との意見交換会の開催

小学校応援団の支援活動をより実りあるものとして継続実施できるようにす

るためには、学校現場の意見を直に聞きながら活動を進めることが重要である。令和2～4年度は新型コロナウイルスの影響で実施できなかった小学校長との意見交換会を開催する予定であったが、コロナ禍明けで学校教育現場は校長先生も含めて多忙を極めていることを考慮し、今年度の開催を見合わせた。

5. 参加企業の拡大と活性化

小学校応援団に参加する468の企業団体の活性化につながる事業を検討する。具体的には参加企業が地元への社会貢献をPRできるようSNS等を活用した広報体制の充実を図るとともに、企業側の人材育成、出前授業を通じたOJTのメリットなどを周知していく。また参加企業のさらなる拡大についても検討を行った。

- ・参加企業にヒアリングを行った。
- ・企画委員会において、参加企業拡大と活性化に向けた実施プロジェクトの検討を行った。

6. 広報の充実化

小学校応援団事業は、北九州地域の企業が協働して、出前授業などを通じて、小学校支援を行う全国的にも珍しく取り組みである。また、文科省が掲げる学校を核とした地域の創生を目指す「次世代の学校・地域」創生プランの実現に向けた具体的な取り組みであり、地域協働の体制づくりが求められる。関係者のみならず、地域に周知する必要があるため、以下の項目について重点的に実施した。

1) 小学校関係者の認知向上と活用促進のための広報の実施

教員に対して小学校応援団の主旨及び内容、利用方法などの説明を実施し、事業の周知を行った。

2) 地域企業等の認知向上と協力環境の構築のための広報の実施

パンフレットの配布やホームページによる事業紹介を積極的に実施し、企業への周知を図った。

SNS等を活用して、参加企業の社会貢献を広く周知した。

3) 保護者や地域コミュニティ等の理解と協力環境の醸成のための広報の実施

小学校応援団のホームページを更新し、地域コミュニティ等における小学校応援団事業の周知を図った。また、適宜、応援団の活動状況を報道機関に情報提供した。

III 支援体制の充実

1. 学校及び講師企業の支援体制の構築

平成26年度に事務局と学校を繋ぐ役割としてコーディネータを設置し、本事業の広報等を担ってきた。その成果もあり全小学校に本事業を周知することができ、役割は果たせたものとする。今年度は、新たに学校と講師企業を中心に支援する体制を強化した。

2. 参加協力企業等の拡大

全校（127校）体制に対応した出前授業の実施環境の構築のため、市内の関係機関等の協力を頂きながら参加協力企業の拡充を行った。

IV 三者会議の開催

北九州市立小学校の教育支援に関する協定書（平成25年4月1日締結）に基づき、当応援団、北九州市教育委員会及び(公財)北九州活性化協議会との三者調整会議を昨年度に引き続き開催し、支援事業の現状について共通認識を図るとともに、方針に関する調整を行う等、事業の円滑な推進を図った。

北九州の企業人による小学校応援団 令和5年度決算
(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

収入

単位：円

項目	予算額	実績額	参考（令和4年度予算額）
負担金	7,500,000	7,500,000	<負担金拠出額> 北九州市 5,500,000 北九州活性化協議会 2,000,000
利息		35	
計	7,500,000	7,500,035	7,500,000

支出

単位：円

項目	予算額	実績額	説明
支援事業費	810,000	1,101,389	講師謝金、出前授業ガイドブック
コーディネーター業務費	700,000	320,000	費用弁償等
広報・プロモーション推進費	580,000	454,975	パンフレット作成等広報費、ホームページ・システムの運用、充実等
人件費	4,440,000	4,464,000	事務局人件費
事務局経費	970,000	1,159,671	会議費、交通費、消耗品費、通信運搬費、事務室等使用経費等
計	7,500,000	7,500,035	



このまちの教育・文化を私たちの手で
1000人の夢 寄金
公益財団法人北九州活性化協議会



2023年度 [令和5年度] 1000人の夢 寄金 事業報告

ANNUAL REPORT 2023 2013/4 ~ 2024/3

Contents (2024年5月発行)


- P1 / 「1000人の夢 寄金」について
- P2-3 / 令和5年度「1000人の夢 寄金」寄付金募集の状況
- P4-5 / 令和5年度「1000人の夢 寄金」助成事業の状況
- P5-7 / 第1回~第11回「1000人の夢 寄金」助成先一覧

KPEC 公益財団法人北九州活性化協議会

〒802-0082 北九州市小倉北区古船場町 1-35 北九州市立商工貿易会館 6F
TEL 093-541-3122 / FAX 093-541-0636
E-Mail:yume@kpec.or.jp

詳細はホームページでもご覧いただけます
<http://www.kpec.or.jp/yume>



 kpecyume



1000人の夢 寄金

検索

1000人の夢寄金について

～ 市民による市民のための寄金 ～



「1000人の夢寄金」は、
(公財)北九州活性化協議会(KPEC)が平成24年10月に設立した
“市民による市民のため”の民間寄金です。
北九州市の都市格(教育力・文化力)を高めることを目的に、
市民のみなさまからご寄付を賜り
ジャンルを問わず市民の教育・文化活動への支援を行っています。
この事業は令和5年度に12年目を迎えました。
平成24年の事業開始から令和5年度までの12年間で
累計6,150万3千円の寄付をいただき
81団体へ2,049万円の助成を行っています。

寄付金を募集しています!!

「このまちのために何かしたい」

「誰かと夢を共有したい」

「世の中の役に立てていることを実感したい」

そんな思いを集める地域貢献の新しいカタチ。ぜひ、お知り合いの方にご案内ください。

ご寄付の種類

- ① 基本ご寄付(1年に一度)
個人・団体:1口 3,000円 / 法人:1口 10,000円
- ② ご遺贈などのご寄付
「遺贈」「香典返しに代えて」など、故人のご意思やご家族の思いをご寄付として承ります

ご寄付の方法

専用の「払込取扱票」による銀行振込

※毎年継続的なご寄付にご協力いただける方は、預金口座引落も可能です。

お問合せ先

公益財団法人 北九州活性化協議会

TEL:093-541-3122 / FAX:093-541-0636 / E-Mail:yume@kpec.or.jp

詳細はホームページでもご覧いただけます
<https://www.kpec.or.jp/yume>

1000人の夢寄金



《 1000人の夢寄金 令和5年度事業報告 》

01

寄付金募集事業

令和5年度も多数の皆様から温かいご寄付をいただきました。
ご支援いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

令和5年度 寄付金合計：138万円

(寄付募集期間：令和5年4月～令和6年3月)

A + B + C

寄付金募集事業の内訳はつぎのとおりです。

基本寄付

個人・団体一口3,000円、法人一口10,000円を基本として寄付の募集を行いました。
「寄付のお願い」文書を発送するとともに、寄付者の振込手続き効率化と継続的な寄付を目的とした口座引落しによる寄付者の登録を推進しました。
また、ホームページからご寄付の申込ができるようにしました。
この結果、114の個人・団体・法人の皆様からご寄付をいただきました。

A 基本寄付金合計：93万4千円 《 114 件 》

プロジェクト寄付

プロジェクト寄付事業としてボランティアグループ「シマウマ組」が主催するチャリティーバザー「クラフト・チクチク de マルシェとワークショップ」は、今年も盛況を博しました。
また、「シマウマ組」が製作する、小倉織のぬいぐるみが引き続き好評で、「シマウマ組」のみなさまから以下のとおり、ぬいぐるみ(シマウマ・カバ)販売によるご寄付をいただきました。

B プロジェクト寄付金合計：24万6千円

「縞縞のシマウマ」「時々ヨコシマなカバ」の販売

「縞縞のシマウマ」「時々ヨコシマなカバ」は、ボランティアグループ「シマウマ組」のみなさんが、小倉織の端切れを使用して、手作りで製作しています。ぬいぐるみの購入代金が寄付になる仕組みで、平成29年4月から本格販売を開始しています。

このぬいぐるみは、「小倉縞縞 本店」様で販売しています。

また、平成30年から、「北九州市のふるさと納税返礼品」に選定されています。



特定寄付（使途指定の寄付）

③ 特定寄付金合計：20万円

※ 大分製紙株式会社様からの寄付金

大分製紙株式会社からのご寄付



令和5年11月14日「北九州紙・えこっパー」を製造・販売している大分製紙株式会社様より、「北九州紙・えこっパー」の売上の一部のご寄付をいただきました。

ご寄付いただいた寄付金は、市民の皆様の教育・文化活動への助成として活用させていただきます。



大分製紙株式会社様からは平成28年度から継続してご寄付をいただいております、これまでに総額160万円の寄付をいただいております。

※「北九州紙・えこっパー」は1パックにつき1円が寄付金となります。

寄付金の推移

(単位：千円)

H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
1,975	1,786	2,003	583	2,111	2,041	2,272	1,973	42,678	1,369	1,332	1,380
合 計									61,503		

02

助成事業

令和5年度の助成事業は、7月に一般公募を行い、「1000人の夢寄金」審査委員会による審査を経て、第12回助成事業先7団体を決定しました。

- 助成事業の募集：令和5年7月1日～8月31日
- 助成事業の審査：令和5年9月20日（審査委員会）
- 募集の結果：助成件数7件（応募件数11件）助成金額合計276万3千円
- 助成対象期間：令和5年10月1日～令和6年9月30日

助成実績の推移

	第1回 (H25)	第2回 (H25)	第3回 (H26)	第4回 (H27)	第5回 (H28)	第6回 (H29)	第7回 (H30)	第8回 (R1)	第9回 (R2)	第10回 (R3)	第11回 (R4)	第12回 (R5)	合 計
応募件数	10	14	10	19	16	10	16	9	7	4	12	11	140
助成件数	4	6	7	7	9	9	9	8	5	4	6	7	81
助成金額 (千円)	1,349	1,900	1,300	1,500	1,500	1,500	2,000	2,000	1,500	1,000	2,178	2,763	23,253

第12回助成先

【事業名】北九州映画サークル協議会創立70周年記念『映画の原点 北九州活弁LIVE』～弁士・片岡一郎とピアノ伴奏による無声映画三作品

北九州映画サークル協議会 運営委員長 有吉和大

活動写真弁士を迎えた無声映画上映で映画文化を盛り上げる

スマホ等でも映画を楽しめる現在だからこそ「映画の原点に立ち返ろう」と、映画好きによる映画好きのためのサークルが企画。活動弁士とピアニストを迎え、2023年11月23日に戸畑市民会館大ホールにて、阪東妻三郎主演『雄呂血』ほか、無声映画三作を上映しました。『映画の街・北九州』の文化度をさらに上げ、都市格向上を目指したこの事業。来場者アンケートでは「大変よかった」「良かった」が98%!主催者から「予算の少ない市民主体の文化事業にとって、実施したい事業の可能性が広がり、内容をより豊かにでき、大変貴重です」と、当寄金の助成に対する感謝と喜びの声が届いています。



【事業名】新小倉昭和館再開告知プロジェクト

小倉昭和館 代表取締役 樋口智巳

感謝の思いと再建の告知を無料上映会というカタチで表現

2022年8月10日に発生した旦過地区の火災により焼失した小倉昭和館が、2023年12月に元の場所で再建を果たしました。小倉昭和館の再開を多くの方々から知っていただき、映画のまち・北九州の底力を市内外に広く発信したいとの思いから企画された無料上映会『新小倉昭和館再開告知プロジェクト』。2023年12月8日・9日に各日抽選で100名を招待し、実施しました。上映作品は『ニュー・シネマ・パラダイス』。無料の上映会を実施することで、再開へ向けて応援して下さったみなさんをはじめ、普段映画館に足を運ばないの方々を含め、より多くの方々に映画を楽しんでいただきました。



【事業名】関門海峡ー建築展 2024ー

北九州建築デザインコミュニティ tonica 代表 野村琴音

学生自身が企画・運営し、議論の場を設けた建築展

「北九州に建築議論の場を」をスローガンに、学生による設計展を2024年2月23日(金)・24日(土)、アウトレットモールにあるスペースLABO内企画展示室にて開催しました。『北九州新人戦』と『九州卒業設計展』で構成し、北九州市立大学、九州工業大学、西日本工業大学ほか、出展者は合計36名。建築家や出展者同士で議論し、地域のこと等に目を向けるきっかけになったようです。家族連れ他、幅広い方々が来場し、建築学生の着眼点を知ってもらうきっかけにもなりました。主催者から「1000人の夢寄金を知らない事業者や支援者に対する広報活動に力を入れても良いのでは」と、ご意見をいただきました。



【事業名】第6回北九州市民映画祭 青山真治監督特集

北九州しねま研究会 代表 吉武あゆみ

ボランティアスタッフが奮闘して実現した青山監督特集

映画好きの北九州市民と北九州出身の青山真治映画監督とのタッグで始まった映画祭。2022年に急逝された青山監督の追悼企画として、2023年12月8日(金)～10日(日)まで、北九州市立美術館分館4階で開催されました。カンヌ国際映画祭ほか、国内外で高く評価されると同時に、北九州と深く関わり続けた青山監督の功績と才能に触れる、北九州ならではの14作品の上映とトークライブを実施。総来場者数は607人。文化に興味を持つ方々の創造力を喚起しました。主催者から当寄金について「文化に関する民間助成団体としてとても有難い存在。北九州の文化振興のために存続していただきたい」との声をいただきました。



【事業名】北九州ドリームサミット 2023
一般社団法人 Kitakyushu Dream Summit 理事長 曾我部駿介

中学生が北九州のまちづくりについて自ら考え、行動し、提案！

次世代のリーダー育成を目的に開催している北九州ドリームサミット(KDS)。主役は、KDS 議員と呼ばれる北九州市内の中学2年生です。2023年度は43名の中学生が参加しました。KDSでは机上の議論だけに留まらず、学んだり、議論したり、行動して検証し、その結果を発信します。2023年度では、「わっしょい百万夏まつり」に出店し、そこで得た収益金を義援金として寄付。KDS 議員自身が九州北部豪雨の被災地である久留米市市長に義援金の目録を直接手渡すという経験をしました。11月には北九州市議会棟で市長・議長・教育長等と意見交換を行い、自分たちの視点でまちづくりを提案しました。



【事業名】有名漫画家 陸奥A子「夢!マンガ・絵本くらぶ」
株式会社 COLT 代表取締役 大野光司

陸奥A子さんを塾長に迎えたマンガと絵本の塾！

2023年小学生がなりたい職業ランキング第1位は、「マンガ家・アニメーター・イラストレーター」。北九州市は夢を実現した多くの人気マンガ家が育ち、輩出してきただけの街。この街で、子どもたちが大きな夢を持つきっかけとなるマンガと絵本の塾を開催したい!と思い、漫画家の陸奥A子さんを塾長に迎え、マンガ・絵本の知識や実践を学ぶ塾を企画しました。陸奥A子さんは、北九州市出身で、1980年代に少女漫画雑誌「りぼん」で全国のおとめチックマンガブームを起こした伝説の少女漫画家です。各地のコンテストに応募できる人材育成等を目指し、地域が誇るマンガ文化を次世代に伝承し、アピールしていきます。



【事業名】Operation Table 2023年度後半期～2024年度前半期の企画展覧会と関連イベント
Operation Table 代表 真武真喜子

完全自主運営の表現空間で異彩を放つアートを展開



公立美術館等の学芸員を務めた主宰者が、2011年に実家である動物病院を生かし、美術館や画廊とは異なる表現空間 Operation Table をスタートさせ、完全自主運営。何ものにも縛られることなく、さまざまなテーマで地元と他地域のアーティストの作品を同時に紹介する企画展を展開。地域の人びとに親んでもらい、全国のアーティストや美術愛好家の関心も集めています。学芸員、アトラクター、美術家等を講師に迎えたセミナーも開催しています。今回の助成では、3名の美術家による「アキレスと亀と旅ねずみ」をはじめ、2024年度前半までに Operation Table で行う展覧会等を支援しています。



03

広報

1000人の夢寄金事業の趣旨及び寄付状況等をホームページ、facebook、メール配信（メールニュース）でお知らせしています。

夢寄金ホームページ URL
<https://www.kpec.or.jp/yume>



夢寄金 facebook URL
<http://www.facebook.com/kpecyume>



※ 1000人夢寄金のメール配信によるお知らせをご希望の方は、お手数ですが件名に「メール配信希望、お名前」を記入のうえ、yume@kpec.or.jp へメールをお願いします。



第1回から第11回までの 助成先一覧

詳細は、1000人の夢寄金ホームページの
「助成先アーカイブ」をご覧ください



第1回 平成25年4月1日～平成26年3月31日 【4件】 134万9千円
<ul style="list-style-type: none"> ■ ZOOと居たくなる!おしゃべりホットルーム 親子のしゃべり場「ふわわ」 代表 吉本一代 ■ 第3回北九州市民映画祭 北九州しねま研究会 会長 吉武あゆみ ■ ひまわりアートプロジェクト ひまわり実行委員会 代表 三宅美穂子 ■ 創立60周年記念小津安二郎「浮草物語」上映会 北九州映画サークル協議会 運営委員長 有吉和大
第2回 平成25年10月1日～平成26年3月31日 【6件】 190万円
<ul style="list-style-type: none"> ■ ZKU Berlin に於ける滞制作及び展覧会の開催 佐々木 玄 ■ インスタレーションプロジェクト「BUILDING DIGNITY」展の開催 北九州インスタレーションプロジェクト実行委員会 ■ 北九州のディテール展 創を考える会・北九州 理事長 岡野正敏 ■ ひびきのであそばう～あそびはまなび 子どもと親の出会いの広場 ひびきの親子あそび研究会 代表 秋葉祐三子 ■ 北九州国際ピエンナーレ2013 北九州国際ピエンナーレ2013 実行委員会 ■ GRADUATION SPECIAL CONCERT2013 福田 寛季
第3回 平成26年10月1日～平成27年9月30日 【7件】 130万円
<ul style="list-style-type: none"> ■ 松本清張・原作「わるいやつら」演劇公演 劇団「青春座」 代表 井生定巳 ■ トマト摘果ロボット競技会開催 九工大トマトロボット競技実行委員会 ■ ドッグセラピー「動物愛護週週間イベント」 NPO法人ドッグセラピージャパン 理事長 野田久仁子 ■ ひまわり実行委員会10周年記念事業 ひまわり実行委員会 代表 三宅美穂子 ■ 「カタリ場」リーダー養成研修 PICO・POKO・CLUB 代表 宮村貴幸 ■ 「BUILDING DIGNITY」展の開催 北九州インスタレーションプロジェクト委員会 ■ 市民の学び舎計画 ひびきの親子あそび研究会 代表 秋葉祐三子
第4回 平成26年10月1日～平成28年9月30日 【7件】 150万円
<ul style="list-style-type: none"> ■ 児童福祉法に基づく放課後等デイサービス事業 NPO法人子ども未来 理事長 神原みゆき ■ 「杉山貞(ただす)ー教育事始め」演劇公演 劇団「青春座」 代表 井生定巳 ■ 小倉織ー日本の色と縞ーイタリアミラノ・サローネ出店 遊生 染織工房 主宰 築城則子 ■ フリースペース・寺子屋活動 ひびきの親子あそび研究会 代表 秋葉祐三子 ■ 小中高生対象に命の大切さを教える出前授業 (公社) 誕生学協会 大江田由美 ■ 第5回北九州市民映画祭 北九州しねま研究会 代表 吉武あゆみ ■ GOLDEN BRASS JAPAN FESTIVAL 日本トップ管楽器演奏者が集う奇跡の祭典 GBJF 実行委員会 実行委員長 岩永満宏
第5回 平成28年10月1日～平成29年9月30日 【9件】 150万円
<ul style="list-style-type: none"> ■ 映像を用いた地域文化の記録上映鑑賞・ワークショップ及び映画製作「平松町アーカイブ」 平松町アーカイブ 代表 荻野衣美子 ■ GALLERY SOAP20周年記念イベント GALLERY SOAP 代表 宮川敬一 ■ マンガで学ぶ日本の産業発展物語事業 西南女学院大学 WILL ■ 句画集「杉田久女101句」の発刊 北九州ディスカバリーの会 代表 佐々木慎二 ■ 創立20周年記念 ロバの音楽座公演 NPO法人かんかんむら幼稚園 代表理事 右田せい子 ■ 日本ー韓国リバーリンク・プロジェクト リバーリンク・プロジェクト実行委員会 代表 小川裕司 ■ 子ども食堂事業 八っちゃん家 八っちゃんファミリー 代表 田畑美佐代 ■ ウジェーヌ・イザイ ヴァイオリンコンサート 日本イザイ協会 会長 永田郁代 ■ 【チーム茶道2016】外国人留学生による男茶会 学研都市留学生支援ネットワーク 理事長 吉江修

第6回 平成28年10月1日～平成29年9月30日 【9件】 150万円

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ MOA美術館北九州児童作品展 ■ 子どもたちが主体的に生きるチカラを育む「生き方のデザイン授業」 ■ 到津の森公園15周年記念事業黒田征太郎絵本作成 ■ 映像を用いた地域文化の記録・上映鑑賞・ワークショップ及び映画製作「平松町アーカイブ」 ■ 好きっちゃ北九州! ■ ぼくのまち、わたしのまちを紹介します! ■ 日本・カンボジア文化交流 ■ いのちの授業・赤ちゃんゲスト&妊婦体験 ■ 児童福祉法に基づく法に基づく放課後デイサービス事業
北九州一周防大島 島ミュージカルプロジェクト | <p>MOA美術館北九州児童作品展実行委員会
(一社) 生き方のデザイン研究所 代表理事 岡昌子
到津の森からの会 幹事長 小田剛
平松町アーカイブ 代表 荻野衣美子
NPO法人好きっちゃ北九州 代表 入門真生
西南女学院大学WILL カンボジア支援アナコットのいのちの授業 代表 大江田由美
NPO法人子ども未来
島ミュージカルプロジェクト実行委員会</p> |
|---|--|

第7回 平成30年10月1日～令和元年9月30日 【9件】 200万円

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ KITAQ MUSIC BATTLE ■ MAP玄関口プロジェクト ■ 第20回ヤングサンタ(プレゼント配布)とチャリティー吹奏楽コンサート ■ 連盟創立55周年位年事業「子ども芸術祭」 ■ 旅する絵本カーニバル in 東田 ■ 子どもたちが主体的に生きるチカラを育む「生き方のデザイン授業」 ■ やはたアート・マンス 2018 ～パレットの樹～ 関連企画「EAT IT!」 ■ キャリア教育「夢授業」 ■ 竹凜共振プロジェクト | <p>KITAQ MUSIC BATTLE PROJECT 代表 藤田大吾
MAP玄関口プロジェクト 代表 池上貴弘
(一社)北九州青年経営者会議 ヤングサンタ実行委員会
北九州文化連盟 代表 井生定巳
絵本カーニバル実行委員会 代表 村岡純
(一社)生き方のデザイン研究所 代表理事 遠山昌子
八万湯プロジェクト実行委員会 代表 森秀信
北九州キャリア教育研究会 代表 木原大助
竹凜共振プロジェクト 代表 田中昇三</p> |
|--|---|

第8回 令和元年10月1日～令和2年9月30日 【8件】 200万円

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ あそぼうさい in 北九州 ■ 子どもたちが主体的に生きるチカラを育む「生き方のデザイン授業」 ■ 枝光まちなか芸術祭 2019 ■ MAP玄関口プロジェクト 2019 ■ Hibikino Green learning project 2019 SDGs from Hibikino ■ 第21回ヤングサンタ(プレゼント配布)とチャリティー吹奏楽コンサート ■ 旅する絵本カーニバル in 東田 ■ かんかんむらの音楽会 | <p>NPO法人好きっちゃ北九州 代表 入門真生
(一社)生き方のデザイン研究所 代表理事 遠山昌子
枝光まちなか芸術祭 2019 実行委員長 鄭慶一
もじこうアート・プラットフォーム 代表 池上貴弘
NPO法人あそびとまなび研究所 理事長 秋葉祐三子
(一社)北九州青年経営者会議 ヤングサンタ実行委員会
絵本カーニバル実行委員会 代表 村岡純
NPO法人かんかんむら 代表理事 右田せい子</p> |
|--|--|

第9回 令和2年10月1日～令和3年9月30日 【5件】 150万円

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ それはモーツァルトだった ■ 北九州の今を描こうあらわそう伝えよう 2020 ■ ポジティブ・ディシプリン」ファシリテーター養成講座 ■ 「生き方のデザイン授業」の“新しい学習教材”の開発 ■ 第22回ヤングサンタとチャリティー吹奏楽コンサート | <p>北九州ミュージックシアター・みらい 理事長 森岡謙一
NPO法人あそびとまなび研究所 理事長 秋葉祐三子
NPO法人GGP(ジェンダー・市民地球企画)代表理事 岩丸明江
(一社)生き方のデザイン研究所 代表理事 遠山昌子
(一社)北九州青年経営者会議 ヤングサンタ実行委員会</p> |
|--|--|

第10回 令和3年10月1日～令和4年9月30日 【4件】 100万円

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 総勢1500人による本気の大運動会 ■ こどものうえんぶるじえくと 2021▷2022 ■ Kitakyushu 夢プロジェクト～7色のこどもたち～ ■ 子どもたちが主体的に生きるチカラを育む「生き方のデザイン授業」を届けるプロジェクト | <p>ONEキッズ先生 代表 國武啓助
NPO法人あそびとまなび研究所 理事長 秋葉祐三子
(一社)北九州青年会議所 理事長 竹内 陽平
(一社)生き方のデザイン研究所 代表理事 遠山昌子</p> |
|---|--|

第11回 令和4年10月1日～令和5年9月30日 【6件】 211万円7,800円

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ あおぞらクラブ(公園遊び) ■ 地域が支える多様な活動プログラム!! 高見ドリームキッズ事業 ■ 北九州ドリームサミット 2022 ■ 関門海峡-北九州新人戦/九州卒業設計展- ■ 若松海岸通りの景観を継承するために ■ 北九州発!大切な児童を守る新たな学び!盗撮疑似体験型ブースを活用し
全国に先駆けた盗撮被害対策を全国に拡げよう! | <p>ONEキッズ 代表 國武啓助
高見まちづくり協議会 会長 伊藤一義
(一社)Kitakyushu Dream Summit 理事長 曾我部駿介
北九州建築デザインコミュニティ tonica 代表 富山佳紀
NPO法人北九州建物遺産トラスト 理事長 畑野清史
盗撮防犯ボランティア Wc 代表 山内千春</p> |
|--|---|

別紙 4

定款(理事の職務及び権限): 第32条第4項に基づく執行役員
の職務執行の状況報告。

令和5年度 (公財)北九州活性化協議会 執行役員会議 開催記録

2023年度		執行役員会議 開催実績 出席○、欠席×				
	開催日	時間	高城 会長	田園 理事長	高田 副理事長	川原 専務理事
4月度	4月26日	メール開催	○	○	○	○
5月度	5月26日	10:30 11:45	○	○	×	○
6月度	7月4日	メール開催	○	○	○	○
7月度	8月2日	メール開催	○	○	○	○
8月度	8月31日	メール開催	○	○	○	○
9月度	10月2日	メール開催	○	○	○	○
10月度	10月31日	メール開催	○	○	○	○
11月度 第1回	11月14日	16:30 17:30	○	○	×	○
11月度 第2回	12月1日	メール開催	○	○	○	○
12月度	12月22日	メール開催	○	○	○	○
1月度	2月1日	メール開催	○	○	○	○
2月度	3月4日	メール開催	○	○	○	○
3月度	3月15日	メール開催	○	○	○	○

事業報告の附属明細書

該当するものではありません。